

高齢者の運転免許自主返納 タクシー利用券など 鶴岡市でも支援急げ

先日、中荒俣のNさん(84歳・女性)から加藤鉦一市議に電話があり、「高齢なので来年1月の更新時までには運転免許証を返納したい」と思っているが、買い物や医者通いに不便となり心配だ。日中は若い者が家に居ないので頼れない。東栄地区の人はデマンドハイヤーが来てくれるというがここは何もない。なんとかならないか」という相談です。

地域限定で年3万円の「高齢者いきいきパス」があります(27年度利用実績121人)。

庄内町の返納者支援事業ではタクシー利用券が最大2万円分(1枚500円・最大40枚)で、1回の乗車で複数枚使え、毎年もらえ注目されます。

旧藤島町にはあったハイヤー券(75歳以上に年12枚)があり大変好評でしたが、合併で廃止されました。

庄内交通では返納者に路線バス割引定期券(1ヶ月1万円の定期券)があります。過疎地域では返納者に関係なく、朝日・温海・田川・豊浦地区のタクシー業界、地域の活性化にもつながる「タクシー利用券」を鶴岡市でも実現すべきです。

事故防止と「生活の足」の確保、さらに高齢者の社会参加やタクシー業界、地域の活性化にもつながる「タクシー利用券」を鶴岡市でも実現すべきです。

◇ 運転免許の自主返納者への特典

【自治体】	※対象年齢は自治体により異なる
山形市	山交バスのシルバー3カ月定期券購入費を1年間全額補助
山辺町	最長2年間使える町営バスの無料乗車券を交付
上市市	市営バス・市営予約制乗り合いタクシー回数券を5500円分交付
天童市	タクシー券、バス乗車券、予約制乗り合いタクシー券のいずれかを2万円分交付
大江町	町営バスかデマンドタクシーの3年間無料乗車券、県タクシー共通乗車券か山交バス普通乗車券2万円分の4種類のうち一つを交付
河北町	町営バスの1年間無料乗車券を交付。更新可
朝日町	県タクシー共通乗車券、山交バス普通乗車券、デマンドタクシー乗車券のいずれかを2万円分交付
村山市	市営バス乗車券、乗り合いタクシー乗車券、楯岡交通タクシー券のいずれかを3万円分、あるいは山交バスの1カ月定期を3カ月分交付
東根市	市内のタクシー会社2社で使える共通乗車券を2万円分交付
尾花沢市	市営バスの回数券を2000円分交付
庄内町	タクシー券を最大2万円分交付。希望すれば毎年もらえるタクシーの初乗り券を20枚交付
遊佐町	バス回数券かタクシー券のいずれかを5000円分交付
酒田市	市営バス回数乗車券(100円券×15枚)を10冊支給
長井市	認知症の高齢者に、タクシー券(620円×24枚)を交付
白鷹町	デマンドタクシーの利用券400円×30枚を交付
飯豊町	デマンドタクシーの利用料を100~200円割引
高畠町	
【交通機関】	
タクシー業界	運賃を1割引き(一部適用除外地域あり)
山交バス、庄内交通	1カ月間乗り放題の定期を1万円分で販売(高速バスなどを除く)

↑「山形新聞」2017年1月13日付から

庄内町 高齢者運転免許証自主返納支援事業

【内容】 高齢者の運転による交通事故を防ぐため、庄内町では平成22年4月1日より運転免許証を自主返納した高齢者に対し、年間最大2万円分の「タクシー利用券」(1枚500円・最大40枚)を交付。

【対象者】 本町に居住する高齢者(返納の日において満70歳以上)で、有効期限内にある運転免許証(種類は問わない)を自主返納した方。

【申請方法】 庄内警察署(公安委員会)から「申請による運転免許の取消通知書」と「無効済運転免許証」をもらい、これと印鑑を持参し、役場にて申請手続。申請は本人に限る。初回申請に限り、免許返納の日から1年間以内に申請。

【支援決定】 郵送にて自宅へ「タクシー利用券」を送付。

【利用の仕方】 町内3業者(余目タクシー・立川タクシー・ハーティータクシー(大豊環境開発))にて利用。1回の乗車で複数枚使用できる。乗車の際、身分証明証を提示し本人確認。

【次年度以降(2回目以降)の申請】 申請期限はないが毎年度申請手続が必要。

私の昭和 56

鈴木重雄(89歳・八色木)

本所仮事務所
仮事務所は藤島仲町八幡神社向のT字路に添ってL字型2階建て、1階が作業場、2階が家具展示場に使っていた阿良建材である。

阿良さんは住宅建築を幅広く手掛けた近郷では大きな建築会社である。道路を挟んだ南側、旧藤島農協事務所と並んで庭園に住宅、事務所でもあったが、廃業したので、作業場展示場は農協第2店舗として使っていた。

八幡神社向西側1階に管理部、金融部が入り、南側に経済部、宿直室、2階に役員室、営農部、小会議室があった。

ここに本所配属職員48人が執務することになった。昭和44年4月1日、管理部金融部事務室で仕事始めの朝礼をした。管理部長の司会で簡単な各部長挨拶があった。全員気持ちを新たにしていた。

今日から協同組合学(農協短大)が短期研修に入るとの紹介があつて、研修生が自己紹介、研修目的について自分の意思を話していた。

素晴らしいと思った。事務室に帰って聞くと、経済部同輩成澤勇太郎さんの長男一男さんだと言う。息子に恵まれたと感心した。

彼は卒業後櫛引農協に就職し、技術指導、農産販売の要職を歴任し、庄内たがわ農協藤島支所長で定年退職された。

雲取山(奥多摩)の日の出

(新町 齋藤留治)



ある年の大晦日、私は金峰山(鶴岡の黄金の金峰です。)の頂上を目指して登山道を登った。

その日、神のお告げかどうかわかりませんが、妙に来る年には何か幸運が舞い込みそうな気がしたので、夕方最後のひと押しと思いい峰山に出かけたのでした。幸い雪が少なく、山の中腹から鶴岡の街並みの光が綺麗に見えて天候は晴れるかと思いきや、頂上に着く頃はチラチラ雪が。

頂上の社務所では新年の初日の出を拝むのか、数人の人が酒を酌み交わしていたが、天候が心配で早々に別れを告げて下山。

いい加減な信仰心が仇になったのか、その後金運に巡り合う事は無かったように思う。

以来、初日の出を拝む事には興味が無くなり、拝んだのは普通の日の出。
ご利益は少ないかも知れないが、数年前に登った早春の雲取山頂直下にある山小屋から眺めた日の出は心に残る。

そもそも雲取山とは何とも不可解な山名ですが、れつきとした百名山、東京都に2千メートルを超え山が有ると知っている方は少ないと思いますが、深田久弥氏によると、この山はかつて晴れた日

には東京都心からも眺められたという。

私は埼玉県秩父側から登り、頂上直下にある年中無休の雲取山荘に一泊し、JR青梅線の奥多摩方面に下山する予定で登ったが、その日は快晴で、夕暮れには東京方面の夜景の眺めが素晴らしく、おまけに東京スカイツリーまで見渡せ、他の登山者も歓声を上げていた。

夕食を食べながら他の登山者とペチャクチャ後、まめ炭炬燵に足を突っ込み、着の身着のまま夜の帳に包まれた。

翌日、山小屋の朝は早く、未だ日の出前なのにザワザワ、薄暗いのに早く出発する人も

いるもんだなーと感心しながら、小屋の窓から眺めると少し東の空に赤みが射してきた。大都会東京方面に上がった朝日、思うところのはるか東には、当時には考えられなかったがアメリカにとんでもない大統領が生まれようとしていたとは。

でも、これは日本農業の再生のチャンスかもしれない。

何故なら輸出で大儲けしている大企業中心から、農業・農協と廃れゆく地域を蘇らせる政治に転換できると思えてならないのである。

憲法9条を暮らした父の続きを生きる

―あらためて憲法を学ぶ 青山崇

1月15日付「あらためて憲法を学ぶ」に高齢の方から感想をいただきました。

「戦後いくらか経たないうちに、私の父のところに警察予備隊発足のため、いままでの軍隊経験をいかして日

本の将来に活かしてほしい。豊かな生活を保障すると言つて何度もしつこく勧誘の訪問をうけました。父は保安隊まで何度も断り続け、日本国民は騙されていったんだーと一歩も引かず、みじめな小商売に

徹して最後を迎えました。父の判断を見ながら育った私ですので、父の果たせなかつた国民の平和な暮らしが実現できるよう、父の続きを生きているのだという気持ちがあります。

世代を越えて生きていく。さつぱり前進どころか困った方向に！生きていくうちに前進させたい！」

警察予備隊発足の1950年は、戦犯が追放解除され警察予備隊幹部に登用した一方、

憲法を守る人を職場追放(レッドパージ)し、戦争反対を貫いた日本共産党幹部を公職追放し「逆コース」といわれた時期でした。

この方の父は旧職業軍人でした。こういう時期に「日本国民は騙されていたんだ！」という信念を曲げず断り続け「みじめな小商売に徹し」平和を生活に根づかせようとし、子どもが「父の続きを生きる」。感極まりです。



国の信用問題

このほど首相が韓国に「国の信用問題」を言っていたが、首相自身に「国の信用問題」は一杯あると思うんですがネー。

▲第一は憲法9条に関してだ。「戦争は放棄した・軍隊は持たないんだ」ということで世界中から羨ましがられていた日本が、専守防衛の為に持っていた自衛隊に武器を持たせて外国に出したことだ。

▲世界でただ一つの被爆国でありながら、何度も核兵器禁止条約に反対していることでは、すでに不思議な国と見られているんだ。

▲未だ原因の究明もされず、安全ナンテ遠い話である原発を再稼働させることは国内問題であるが、そんなものを外国に輸出するという事。米国・ソヴィエト・日本の福島と3つ

も事故を見せられて、原発から手を引くと言う国が多く出てきているというのに。

▲福島で水の問題も片付けられない状況でいながら、チャンと管理していると言つて取ってきた東京五輪今は、除染で出てきた土やゴミを新たな基準を考えだし、早く量を減らすうとしていいる。例えば土はセメントと混ぜて道路工事などに使いたいらしい。目と耳を大きくして監視が必要だ。

▲かつては日本人の働きすぎがエコノミックアニマルと言われたものだが、その頃からもあったんじゃないか。のいかい。「過労死」というものが。それが世界共通語になって何年か経つたが、今またそれが起きていいるんだ。

▲読者の皆さんにはもっとお気づきの点があるでしょうが、国の信用問題は、国民にも責任があるんだネー。(石川)



警察予備隊員の募集ポスター(昭和25年)